

平成27年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立東小沢小学校 教諭 宮田 信幸

1 派遣期日 平成27年8月19日（水）～8月19日（水）

2 研修先 東京学芸大学 小金井キャンパス

所在地 東京都小金井市貫井北町4-1-1

3 研修内容

研究会テーマ 言語力向上を図る授業づくりと教材研究

ー国語科の授業の工夫と他教科への応用ー

(1) 各教科における言語活動の工夫とその実際

講師 中村 和宏（東京学芸大准教授）

(2) 国語科における学習指導の工夫とその実態

講師 土屋 晴彦（静岡市立竜南小学校教諭）

(1) 各教科における言語活動の工夫とその実際

① 各教科における言語活動の工夫

○規則を工夫したゲームを通して、コミュニケーションを図る。（3年）

○調査結果を分析して自分の考えを説明する。（社会5年）

○話し合いを行うことで発想や構想を深める。（図画工作4年）

○討論により実験を構想し、共同で追求する。（理科5年）

② 言語活動の充実における言語力の育成Ⅰ

○各教科・領域の学習を通して、言語活動（学習内容について書いたり、話したりする活動）を意識的に行うことが大切

・思考力・判断力・表現力の必要⇔・コミュニケーションの可能化

言語活動を意識的に取り入れることで、協働の学習が可能となり、各教科・領域の理解内容が活用され、それらに関する思考（判断や表現）が活性化し、学習のパフォーマンスが向上する。

○言語化がもたらすこと

・対象を注視する

〔例〕茎の長さは13センチになりました。葉は、6枚あります。葉の大きさは、一番大きいのは7センチです。形はこんな感じで・・・

「茎」「葉」という用語を使うことで部分を注視する。

「長さ」「大きさ」という言葉を使うことで、その意味の異同や使い分けをする。

文字として記録できない情報を絵などで表す。

・言葉が世界を分けている

例 可視光線 赤 燈 黄 青 藍 紫

風の様子 強風 突風 薫風 寒風 そよ風 潮風 夕風

物に名前をつけたのではなく言葉があるから物がそうあるように見える

③ 言語活動の充実における言語力の育成Ⅱ

各教科・領域の学習で使われている「言葉」に着目し、その言葉を子どもが理解し、積極的に使えるようにしていくことが大切

・教科の内容や扱う概念の深い理解へ⇔コミュニケーションへの積極的な参加へ
「言葉」に着目し、注意深く扱うことで、その教科の内容が深く理解できるとともに、その「言葉」を使って表現したり、話し合ったりするコミュニケーションの場にみんなが参加できるようになる。

・教科理解を支える言葉の力

読解力が教科学習の理解を支える。

説明する文章と関連する図表をどう関連させて読めるようにするか。

⑤ 教育課程次期改訂の視点

「課題発見・解決に向けた主体的・共同的な学び（アクティブ・ラーニング）」と「カリキュラム・マネジメント」は、授業改善をはじめ組織運営の改善など学校の全体的な改善への働きかけとして、車の両輪として位置づけ相互の連動を図り、機能させることが大切である。

【課題発見・解決に向けた主体的・共同的な学びのチェックリスト】

I 立ち止まって考える間を取る。

II 課題について短く書く。

III 内容をどの程度理解したかを自分で確かめる

IV クラス全員で話し合う。

V 個人で取り組んだことをペアで話し合う。

VI 近くの人や三人組などのグループで活動に取り組む。

VII 作文などをペアで読み合う。批正し合う。

VIII グループ同士で互いの発表や作品を評価し合う。

IX 協力してアイデアを出したり検討したりする。

X 学習したことを自分の体験や知識、また、地域や家族などの実際の生活に結びつけて考える。 など18の活動の例示

(2) 国語科における学習指導の工夫とその実態

① 国語科における学習指導の工夫

○自己肯定感を高める「書くこと」の授業

○「自己評価力」の向上を、国語科「関心・意欲・態度」評価に

② 授業づくりワークショップ

○「あらすじ」をまとめる学習を行うのにぴったりの学習材は…

4 感想

今回の研修では、言語活動を意識した学習を展開することにより、共同の学習が可能になり、思考力・判断力・表現力など伸ばすことができることが理解できた。各教科の学習で意図的・意識的に言語活動を取り入れることにより、授業改善を図っていきたい。また、教科学習で使われる言葉の意味をとらえる難しさとその手立てについての講義は、子どもたちのつまずきを見取る視点を与えてくださり大変参考になった。今後の参考にしたい。